芸術科書道Ⅰ 学習指導案

学 校 名 福岡県立筑豊高等学校

指 導 者 教諭 黒木 みのり 印

実施日時 令和3年11月24日 水曜日 5・6時限

実施学級 第1学年2組 13名

実施場所 書道教室

1 単元名 「漢字仮名交じりの書」－生活の中の書の効用に迫る－

2 単元設定の理由

○単元観

本単元では、生徒が日常的に触れている漢字と仮名の両方が含まれる文章を題材とする「漢字仮名交じりの書」の学習を活かして、表現の工夫について学ぶ。学習指導要領「書道Ⅰ」解説の2目標(3)において「書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う」とある。そして、3内容B鑑賞において、「生活や社会における書の効用」について身に付け、書のよさや美しさを味わって捉えることと明記されている。これに関して、4内容の取扱いにおいて、(10)「書道の諸活動を通して、生徒が文字や書と生活や社会との関わりを実感できるように指導を工夫する。」と示されている。以上のことから、生徒が自身の想いと関連させながら書表現の構想を工夫して作品制作する過程を経験することで、生活の中で目にする手書き文字に関心を持ち、2目標「生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる」ことに繋がると考えた。また、写真と文字とが一体になった作品であれば、制作者の表現意図に対してより理解が深まるため、感性に訴える作品ができると考えた。

今回は、漢字仮名交じりの語句を用いて書制作に取り組む。また、その書をデータ化して写真と合わせた作品に仕上げる過程を通して、生活や社会の中での書の効用について考える機会とする。漢字仮名交じりの書においては既存の詩文や語句を用いる場合もあるが、自身の体験や想いに即した語句を紡ぎだし、その語句をどう表現するか考えることが重要である。今回は、語句と同じく写真も自身で撮影したものを用いて学習することで、表現効果についての理解を深めることをねらいとしてこの単元を設定した。写真の雰囲気と合わせて語句の意味や語句に対する想いを表現し、壁面に飾ることができる作品を制作することで、生活や社会の中での書や芸術の役割を生徒に印象付ける相乗効果を目指す。

○生徒観

本学級の生徒は、男子9名、女子4名で構成された商業に関する学科の生徒である。明るく素直な生徒が多く、落ち着いた雰囲気である一方で、発言する場面においてやや積極性に欠ける様子が見受けられる。

生徒はこれまで、泰山刻石、曹全碑、蘭亭序、九成宮醴泉銘、自書告身、始平公造像記、鄭羲下碑の順に学習を進め、泰山刻石以外の各古典の倣書として、ことわざを用いて漢字仮名交じりの書の学習を行った。この経験を活かし、今回の学習では制作意図に基づいて書風や用筆・運筆法を選択し、書制作をする。また、漢字仮名交じりの書の単元において、初めて自身が考えた語句を揮毫する。試行錯誤を繰り返して制作する体験を通して書制作の楽しさを味わうとともに、グループや全体での鑑賞会を通して自己肯定感を高めたい。また、鑑賞活動においては作品の魅力を感じとり、適切な言葉で表現できる力を養いたい。

○指導観

本単元の指導にあたっては、制作意図に基づいた表現について構想し工夫することで、書表現の多様性についての理解を深めることをねらいとしている。

そこで第1次では、既習の古典の基本点画を復習するために、パワーポイントを使用して各古典の分析的鑑賞の振り返りを行う。そして、今回の学習の完成作品を想像させるために、写真と手書き文字をパソコンで編集した作品例を提示する。また、既習の漢字仮名交じり書の学習を活かした作品制作をするために、表現の工夫について振り返りを行う。潤筆・渴筆による違い、文字の大きさによる違い、文字の配置による違いの作品例を示すことで、生徒がどのように捉えたのかを発言させ、適切な言葉で表現できる力を養いたい。

第2次では、制作意図に基づいた表現について考えるために、揮毫する語句から連想するイメージや作品のねらいを明確にさせた後、制作意図に沿った写真の撮影を行う。写真を撮影する際の注意点として、著作権・肖像権について留意するよう伝える。

第3次（本時）では、書を構成する要素について検討しながら揮毫させる。自身の想いを伝えるために効果的な表現について考えるため、グループでの中間鑑賞会を設定し、制作意図と表現の工夫が呼応しているか検討するよう様相観察を行いながら指導する。また、中間鑑賞会での他者の意見も踏まえて、自身の表現したい作品の構想を決定させたい。なお、納得できる意図に応じたまとめ作品を仕上げられるよう、必要に応じて範書を行う。

第4次では、写真データと合わせて作品を編集するために、パソコンを活用し、まとめ作品をデータ化させる。最後に完成した作品を全体鑑賞会で鑑賞させ、創作活動の振り返りを行う。自身や他者の作品を鑑賞することで、主体的に作品の良さや風趣を感じとらせ、それについて根拠をもって説明する態度を育成したい。

3 単元指導目標

(1) 制作意図を明確にして自身の想いを表現した作品を制作することができる。

【知識・技能】

(2) 制作意図や工夫について根拠をもって説明することができる。

【思考・判断・表現】

(3) 生活や社会における書の効用を理解することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
用筆・運筆法を活用しながら、制作意図に基づく表現を行うことができる。	制作意図に基づいて、線質・字形・構成を考えることができる。	書作品に関心を持ち、主体的・意欲的に学習に取り組んでいる。

5 学習に即した評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知語句を効果的に表現するためにふさわしい技法について理解している。</p> <p>技作品において既習の用筆・運筆法を活用しながら、制作意図に基づく表現を行うことができる。</p>	<p>思①線質・字形・構成について考え、工夫している。</p> <p>思②他者の作品について鑑賞したことを文章で記述することができる。</p>	<p>表語句と写真または構成との関連性について考えることができる。</p> <p>鑑作品に関心を持ち、主体的・意欲的に学習に取り組んでいる。</p>

6 指導と評価の計画（計8時間）

次	配当 時間	学習内容・学習活動	評価規準			評価方法
			知・技	思・判・表	態度	
一	2	○既習の古典の分析的鑑賞を振り返り、基本点画の復習をする。 ○書を構成する要素について振り返り、印象の違いについて言葉で表現する。	知		態表	・ワークシート ・様相観察
二	2	○作品の構想を立てる。 ○写真と揮毫する語句は事前課題とする。 ○揮毫する語句を検討し、試作品を書く。	知		態表	・ワークシート ・作品
三	2 (本時)	○試作品をもとに表現の工夫について、グループ活動を通して再度検討し、中間鑑賞会を通して気づいた課題に取り組む。 ○中間鑑賞会で出されたアドバイスをもとに練習し、まとめ作品を書く。	技	思①	態鑑	・ワークシート ・仮止め作品 ・まとめ作品
四	2	○まとめ作品をデータ化し、写真と合わせ、編集する。落款は印のみとし、データ化した印を入れる。 ○鑑賞ワークシートに他者の作品の鑑賞記録を書き込ませながら、全体鑑賞会を行う。		思②	態表 態鑑	・ワークシート ・作品

7 本時

(1) 本時の指導目標

- ・表現したい想いと照らし合わせながら、用筆や運筆法を表現することができる。

【知識・技能】

- ・制作意図に合った線質、字形、構成を工夫することができる。

【思考・判断・表現】

- ・鑑賞する際に、他者の作品について感じたことを、根拠をもって伝えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の手立て

- ・作品の構成を工夫するために、テープのりを使って揮毫した文字を仮止めする活動を行う。
- ・制作意図に基づいた表現を工夫する際に、少人数のグループで直感的かつ分析的に鑑賞する場を設ける。
- ・構想の幅を広げるために、個別に範書指導を行う。

(3) 教材

教師 教科書・書道用具・ワークシート・PC・プロジェクター・スクリーン・書画カメラ

生徒 教科書・書道用具・ワークシート・試作品・A3サイズの写真・クリアファイル・ホワイトボード用マーカー・ふせん・テープのり・ハサミ・筆記用具

(4) 本時の展開

	○学習内容・活動	教師の支援・指導上の留意点	教材	配当時間	学習形態	評価
導入	○黙想・挨拶	・休み時間と授業態度のメリハリをつける。		1分	一斉	
	○本時の目標の確認	・目標を掲示する。				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 目標 漢字仮名交じり書の学習を活かして、自身の想いを明確にし、工夫して表現する。 </div>						
	○前時の振り返り	・本時は漢字仮名交じり書の学習を活かして作品を制作することを伝え、前時の振り返りを行う。 (1) 潤筆、渴筆の印象の違い (2) 線の太細による印象の違い (3) 文字の大小による印象の違い (4) 文字の配置による印象の違い ・壁面や机上等に飾る作品を制作することを伝える。	プレゼンテーションワークシート	4分	一斉	
展開 I	○構成の検討 ・仮止め作品を制作する。	・試作品と写真を活用して構成を再度検討させる。 ・試作品の文字を切ってA3サイズの写真に並べてテープのりで仮止めし、クリアファイルに入れさせる。	試作品 写真 ハサミ テープのり クリアファイル	15分	個人	
	○中間鑑賞会 ・制作した仮止め作品について、3～4人班で鑑賞する。	・鑑賞会に向けて制作意図を書かせる。 ・制作意図を発表させ、聞いている生徒は制作意図と作品の表現が呼応しているか確認させる。 ・良い点と改善点を横書きでふせんに書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 良い点…桃色のふせん / 改善点…青色のふせん </div> ・スライドで本時のループリック評価を提示し、ワークシートの裏面にも記載していることを伝え、学習への意欲を引き出す。 ・質問があれば発表者に尋ねるよう伝える。 ・鑑賞の意見に間違いはなく、様々な意見があってよいのだという認め合いの雰囲気作りの場を設ける。	ワークシート ふせん 筆記用具	15分	グループ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 態 作品に関心を持ち、主体的・意欲的に学習に取り組んでいる。 【ワークシート】 </div>

	<p>○表現の工夫の再検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間鑑賞会での他者からのアドバイスをもとに、線質、字形、構成について表現方法を再検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・線質、字形、構成に関する表現の工夫についてホワイトボード用マーカーでしるしを付け、ふせんに文章を書き込み、仮止め作品に貼り付けるように伝える。<u>ふせんに書く際</u>、工夫点や改善点について3つ以上書き込むように呼びかける。 ・ルーブリック評価を確認させる。 	ふせん マーカー	15分	個人	思 線質・字形・構成について考え、工夫している。 【仮止め作品】
展開 II	<p>○黙想・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間と授業態度のメリハリをつける。 				
	<p>○中間鑑賞会の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ作品の制作で注意することを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班から代表者1名を選出し、表現の工夫について全体で発表する場を設ける。 ・発表者の制作意図と表現の工夫がどのように呼応しているのか、解説をする。 ・中間鑑賞会の報告を聞いて、線質・字形・構成についてふせんの記述内容を再度検討させる。 	ふせん マーカー	10分	一斉	
	<p>○まとめ作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮止め作品に書き込んだことを意識しながら揮毫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価を確認させる。 ・様相観察を行い、適宜、範書指導を行う。 	書道用具 教科書 書画カメラ	25分	個人	技 作品において既習の用筆・運筆法を活用しながら、制作意図に基づく表現を行うことができている。 【作品】
	<p>○片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の裏に出席番号と名前を記入するよう伝える。 ・作品が乾いたら洗濯ばさみを使って掲示するよう伝える。その際、作品が乾いていない生徒の支援を行う。 ・書き終わっていない生徒に対して配慮しながら片づけを行うように呼びかける。 		10分		
まとめ	<p>○本時の振り返りと予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返るため、次の内容を伝え、ワークシートに感想を書かせる。その際、ルーブリック評価も記入させる。 ・表現したい想いを明確にして、作品を制作する重要性 ・生活の中での書の効用 ・次回はクロームブックで写真と文字を編集することを伝える。 	ワークシート	5分	一斉	

(5) 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ・ 潤筆・渴筆 ・ 線の太細 ・ 文字の大小 ・ 用筆・運筆法 ・ 書風 ・ 文字の配置 	<p>表現の工夫</p>	<p>プレゼンテーション</p>	<p>目標</p> <p>漢字仮名交じり書の学習を活かして、自身の想いを明確にし、工夫して表現する。</p>	<p>漢字仮名交じりの書</p>
---	--------------	------------------	--	------------------

(6) 本時のルーブリック評価

		A	B	C
第3次	<p>態 作品に関心を持ち、主体的・意欲的に学習に取り組んでいる。</p>	<p>中間鑑賞会において他者の作品から感じ取ったことについて、良い点と改善点について根拠をもってどちらも1つずつ書き込んでいる。</p>	<p>中間鑑賞会において他者の作品から感じ取ったことについて、良い点と改善点について根拠をもってどちらか1つ書き込んでいる。</p>	<p>中間鑑賞会において他者の作品について感じ取ったことを、良い点と改善点について根拠をもって書き込んでいない。</p>
	<p>思① 線質・字形・構成について考え、工夫している。</p>	<p>仮止め作品に工夫点や改善点を3つ以上書き込んでいる。</p>	<p>仮止め作品に工夫点や改善点を2つ書き込んでいる。</p>	<p>仮止め作品に工夫点や改善点を1つ書き込んでいる。</p>
	<p>技 作品において既習の用筆・運筆法を活用しながら、制作意図に基づく表現を行うことができている。</p>	<p>まとめ作品において仮止め作品に記述した、書を構成する要素が3つすべて達成できている。</p>	<p>まとめ作品において仮止め作品に記述した、書を構成する要素が2つ達成できている。</p>	<p>まとめ作品において仮止め作品に記述した書を構成する要素が1つ達成できている。</p>